

平成26年度

杵築市城下町地区まちづくり協議会 実績報告書



協議会名 城下町地区まちづくり協議会

代表者住所 杵築市大字杵築152番地

代表者氏名 会長 下村 亮介

目 次

(1) 事業実績報告

① 会長所見	1
② 先進地研修事業	2
③ まちづくり講演事業	3
④ 協働実践事業【生涯学習課】	4
⑤ まちづくり活動	6

(1) 事業実績報告

① 会長所見

杵築城下町地区内に居住する住民と杵築市が協働し、歴史と伝統を生かしながら歴史的なまち並整備や賑わいづくりを行うことにより、後世にこの地区の素晴らしさを伝えるための「まちづくり」を推進することを目的として設立された本協議会の事業方針をもとに平成26年度事業を実施しました。

まず、先進地研修事業として協議会会員の知識の向上を図るため、まちづくりの先進地である熊本県熊本市と佐賀県佐賀市の視察を実施しました。両市共に歴史的文化財の復元に取り組み、又それをまちづくり（ハード）に活かそうと試みていました。しかしながら、文化財として復元するには文化庁の厳しい審査や高いハードルをクリアしていかなければならない等、多くの知識を得ることになりました。また、民間の力でまちづくり（ソフト）にも取り組みがされており、熊本市では、みずあかり（杵築の観月祭）の視察をいたしました。佐賀市では、わいわいコンテナ事業の視察を行いました。空地利活用の手法を学ぶことができ、今後我々の商店街の空地活用にも取り入れていきたいと感じました。

次に、協働実践事業として、協議会と行政（生涯学習課）の調整を図りながら御殿発掘調査の結果をふまえ、討論会を2回開催しました。城下町地区における伝統的建造物群保存地区とは何かをテーマに討論を重ね、まちづくりへの住民の現状での理解度を認識しました。その後、まち並み保存への今後の取り組みの重要性について、先進地である福岡県八女市より八女町家再生応援団の北島力氏を講師に招き、シンポジウムを開催しました。八女市においては、文化財の改修を必ず地域の業者に発注をするそうです。これにより、地域の伝統的職人の保護につながる取り組みがされています。杵築市でも今後、住民に愛着と誇りが生まれる文化財維持保存なされることを望みます。

まちづくり講演会事業については、昨年に引き続き「きつきに住まうということ」をメインテーマとして、コミュニィーデザインの第一人者である山崎亮氏をお迎えし「人から創るまちづくり」～地域創世の鍵はコミュニィーに～をタイトルに講演会事業を開催いたしました。多くの市民や行政の方にも参加頂きました。特に今回は高校生の参加もあり、今後は学生にも声かけをして事業を行いたいと感じました。人口減少に向かう日本で、どのようなまちづくりを行うのか、高度成長期におざなりになってきたコミュニィーこそがその鍵であることを再確認できた講演でした。一極集中型の国の構造下において、地方の人口減少は避けられません。我々の地域においてもおそらく今後人口が増加することは、ありえないでしょう。しかしながら、座してそれを待つのではなく、その減少速度を緩めることは、地域の努力で可能であると考えます。その努力が実を結び、国（国民）の考え方が変わった時おそらく、地域は光輝くのだと思います。その糸口をこの講演（成功事例）を通して学ぶことが出来ました。

以下、各事業の詳細について資料を添付し、事業実績をご報告いたします。

②先進地研修事業

視察先 熊本県熊本市、佐賀県佐賀市

日 時 平成26年10月11日(土)～10月12日(日)

参加者 会員7名 市職員随員3名

今回訪問した熊本市では、平成10年より熊本城二の丸御殿の復元整備事業に取り組み、観光と一体化した整備・町づくりを行い、多くの観光客誘致に繋がっている。また、地域住民からはじまった地域活性化イベント「熊本暮らし人まつり みずあかり」は、2004年より市民の祭りとして年々賑わいを増しております。

佐賀市では、復元された佐賀城本丸御殿を歴史資料館として公開しており、発掘調査や文献などから本丸の正確な位置に遺構を再建された経緯を知ることができる。

先日、建築家西村氏の講演で印象深かった佐賀市内の空き地を利用したプロジェクトは、杵築の空き地にも取り入れたいアイデアが多数あり訪問したい地のひとつであった。

このような理由のもと、上記視察地を選定いたしました。

熊本城では、復元整備の概要・保存と活用について説明を受けました。壮大なスケールの計画は、年月も資金も想像をはるかに超えるものであり、文化財保護法による事業推進のむずかしさを学びました。時間と予算・復元規模等、綿密な計画・知識が必要となり、杵築市の史跡においても熟考が必要かと思われました。

熊本城下では、「桜の馬場 城彩苑」という歴史文化体験施設・食事お土産処が連なっていました。和風の町並みは、杵築の城下町の風景にも合う屋台・看板・休憩所・ゴミ箱などがあり、非常に参考になりました。空き地利用のワークショップにも生かせる工夫がいくつもあり、参加者も熱心に撮影していました。

夜は、「第11回熊本暮らし人まつり みずあかり」に参加しました。コンセプトは「故郷熊本の魅力を再発見しここに暮らす喜びや切なさまでも共感できる市民と地域でありたい。市民の力で祭りを作り、運営し、活力を生み出すこと」行政からの交付金なしに民間企業の協賛と市民の力で運営をされています。市・県・自衛隊・学校なども参加していますが、一市民ボランティアとしての立場とのこと。市民一丸となればできないことはないという、大変な活力を感じました。杵築市観月祭とは到底比べものにならない規模・来場者の数でしたが、竹のオブジェなどの制作物にチャッカマンで来場者に点灯してもらい、まつりに参加してもらおうスタイルなど、運営面では参考になることが多かったです。個人的には、武家屋敷を中心とした杵築観月祭の方が幽玄の世界を感じることができるのではと感じましたし、風情がある杵築のすばらしさを再認識する機会でもありました。

佐賀城本丸歴史館は、本丸御殿の復元としては日本初、木造復元物としては日本最大規模とのことです。入館料を無料にする代わりに施設の維持費を賄うために募金箱を設置していました。小座間は以前、近隣に移設され、公民館として利用されており当時の材料で複雑な組み木での建設がされていました。

佐賀市内の空き地利用、わいわいコンテナプロジェクトでは、移動可能なコンテナを中心に誰もが気軽に立ち寄れる街なかの「憩いの場」や起業するためのシェアオフィスの運営など見学させていただきました。台風の影響で人通りが少なかったため、いつもの活気を見ることができませんでしたが、コンテナの中は設備がしっかりしており、外観を工夫すれば杵築城下町地区の空き地への設置も景観を損ねることはないと思われました。

佐賀の街なかの日常的な賑わいを取り戻したい・働く人と集まる人がコラボレーションして、一緒に佐賀の街を育てていく起点となる場所。というコンセプトにはとても共感するものがありました。

今回の研修では、杵築に持ち帰り参考にする・実践したいことをたくさん見聞きすることができました。会員の士気も高まっており、積極的に学ぶ姿勢も見られました。より住みやすく、もっと杵築のことが好きになるようなまちづくりのため、今回の研修を役立てていきたいと思えます。

③まちづくり講演会事業

「城下町地区まちづくり協議会シンポジウム～きつきに住まうということ～」

開催日時 平成27年2月16日(月) 19:00～21:00

開催場所 杵築市商工会館

基調講演 「人から創るまちづくり～地域創生の鍵はコミュニティーに～」

講師 studioL代表 山崎 亮(京都造形芸術大学教授)

内 容

新しい時代の地方の豊かさを求めて、少数人口の集落から中小地方都市、日本最大級の商業施設まで、多くの再生プロジェクトに携わり、これまで試みられてきた減少人口の回復や経済的な活性化とは違った形でのコミュニティデザインという手法を用いて、人と人とのつながりを通して、地域の課題を地域住民自身が解決の糸口を見出していく、その設計図とも言える構想を描き、サポートしていく重要性を再認識し、城下町地区に調和した今後のまちづくり形成と学術的見地からの地域創生に対する貴重な提言ともなる講演をいただきました。

考 察

山崎氏は、携わってきた全国の事例の中から、講演に来ている人や講演地に触れてから、話す事例をその場で決めるそうです。

我が町杵築で講演された事例の中で注目したのは、その場所に住み暮らす人にとっては何

でもない日常の風景でも、外から来た人にとっては新鮮だったり、非日常だったりすることがあるということです。例を挙げると畑の真ん中に冷蔵庫がいくつも並んでいる風景。

都会に住み暮らす人にとっては、家の中にあるはずのモノ。なぜ電気も通ってない畑の中にあるのか……。壊れた冷蔵庫を捨てるにはお金がかかります。何かに使えないかと考えたとき、畑の肥料・道具を入れるのにちょうど良いと思ったそうです。

何でもないモノでも、人によっては価値があったり、思わぬ形で役に立ったりすることもあります。

杵築にも、杵築にしかないモノがたくさんあると思います。それは風景だったり、物だったり、歴史だったり、祭りだったり、文化財と子どもの触れ合いだったりするかもしれません。時にそれは故郷の思い出となって、杵築の良さを他の場所で人に伝えたり、杵築に戻ってくるきっかけになったりするかもしれません。

④協働実践事業

城下町地区の特性を活かしたまちづくりを行う中で住民のもつ誇りや愛着を重視し、住み暮らす地域住民と協働でまちづくりについて考察する事業を2回に分けて開催しました。平成26年度は第1回目（10月1日開催）として城下町地区の歴史的建造物の調査に基づく報告と今後の方向性について課題提起し、第2回目（10月29日開催）では、他地区での先進事例の紹介した後、第1回目のアンケートによる質問事項を踏まえながらパネルディスカッション方式で伝統的建造物群保存地区の指定を視野に入れた疑問等を解決に向けた意識の共有を図りました。

「城下町地区まちづくり報告会 ～杵築城下町の歴史的な建物について～」

開催日時 平成26年10月1日（水） 19:00～21:00

開催場所 きつき生涯学習館 第2会議室

内 容

報告1 「杵築市伝統的建造物群調査中間報告」

説明者 杵築市城下町地区まち並みづくり建築審査会会長 有田頼正

報告2 「伝統的な建造物に対する文化財保護について」

説明者 杵築市教育委員会生涯学習課文化財係 板尾達憲

（アンケートによる主な記載事項）

- 伝建地区の指定範囲の選定基準を明確に周知するべき。
- 指定された場合の規制や補助対象について明確に周知するべき。
- 保存か開発かは難しい問題であるので慎重に舵取りするべき。
- 指定後の新規移住者への配慮づくりをしっかりと行うべき。

等です。

「城下町地区まちづくりシンポジウム」

開催日時 平成26年10月29日(水) 19:00～21:00

開催場所 杵築市商工会館

内 容

基調講演 「八女福島伝統的建造物群の保存再生活動の概要、教訓、これから」

講 師 NPO 法人八女町家再生応援団副代表 北島 力

パネルディスカッション 「杵築の伝統的建造物群保存地区について」

※第1回開催時のアンケートを踏まえての討論

(協働実践事業について)

第1回目(10月1日開催)

杵築市城下町地区まち並みづくり建築審査会会長 有田頼正氏より杵築市伝統的建造物群調査の中間報告として、杵築城藩主御殿発掘調査の内容や城下町地区に現存する歴史的建築物の建築技法から建築された時代の背景、周辺の景観のもつ重要性についての報告がありました。次に生涯学習課より伝統的な建造物に対する文化財保護についての意義の説明があり、条例等で制度化された伝建保存地区の具体的取り組みについて報告がありました。他地区の条例から制度におけるメリットとデメリットを説明し、杵築での伝建指定を視野に入れた取組を模索するきっかけを作るための提案がありました。最後に報告会全般についてのアンケート調査を行い、第2回目に生かす取り組みとしました。

第2回目(10月29日開催)

既に伝建地区指定を受けている福岡県八女市より NPO 法人八女町家再生応援団副代表の北島力氏を招聘し、指定を受けるまでの苦労や問題点、これからの在り方を解説いただきました。また地域での活動と今後の取り組みについて参考となる貴重な経験談を拝聴でき、杵築での将来の伝建指定に向けたビジョンを参加住民と共有することができました。

次に、第1回目で実施したアンケート調査での参加者の疑問点を中心にまち協と市担当者でパネルディスカッション方式による討論会を行いました。特に指定を受けるためのデメリットを明確に把握した上で伝建への取り組みを行わないと住民に混乱を招く恐れがある旨の指摘をし、今後の指定に向けての指針を見出すことができました。ただ、指定に向けては指定エリアの住民に丁寧な説明を行う必要があることも共有しました。

⑤まちづくり活動

(定例会の開催)

- 第1回 開催日 平成26年8月23日(土)
協議事項 視察地選定、講演事業概要、会員募集、定例会開催日程の決定等
- 第2回 開催日 平成26年9月24日(水)
協議事項 視察日程調整、講演事業日程調整、協働実践事業概要等
- 第3回 開催日 平成26年10月15日(水)
協議事項 協働実践事業打ち合せ、研修報告書の作成について等
- 第4回 開催日 平成26年10月22日(水)
協議事項 講演事業テーマ選定、まちづくりシンポジウム開催準備等
- 第5回 開催日 平成27年1月13日(火)
協議事項 講演事業詳細打ち合わせ、次年度事業計画(案)について
- 第6回 開催日 平成27年3月7日(土)
協議事項 次年度事業計画(案)作成、事業活動報告について
- 第7回 開催日 平成27年3月11日(水)
協議事項 次年度事業計画打ち合わせ、事業活動報告冊子作成について

②先進地研修事業



③まちづくり講演会事業



④協働実践事業

